

NPO-RMC

事業に見える化するロジックモデル

2018/05/13 OKADA

●事業を見える化し、事業プロセスを明確にするツール

NPO-RMC

●使命・目的（何のために。何をするのか。それは機会か。強味であるか。）

--

●定款（定款規定の目的・事業。意思決定機関）

--

●実施する事業 事業をすべて書き出す。(インプット)

事業名	事業の内容	投入する資源(インプット)
事業A		
事業B		
事業C		
事業D		

●事業実施・直接の結果(アウトプット)

事業名	タスク	事業の結果(アウトプット)	数値管理指標	事業と事業の関連
事業A	タスクA			
	タスクB			
	タスクC			
事業B	タスクA			
	タスクB			
	タスクC			
事業C	タスクA			
	タスクB			
	タスクC			
事業D	タスクA			
	タスクB			
	タスクC			

数値管理指標：予定するイベントや講座の回数・集客数など

タスク：事業を作業(タスク)に細かに分解する。例：講座・イベント・研修会など

実施事業：すべて書き出して、むだな廃棄すべき事業や使命・目的に合わない事業は廃棄する。

実施する事業は、定款の内容と整合性がなければならない。

一般的な事業管理は、投資した資源に見合う活動であるかをインプットとアウトプットで評価し、アウトカムやインパクトについて、管理されていないことが多い。

評価する期間は、法人の年度期間とする。

事業計画が年度を超える長期である場合は、法人の年度期間に分解する。

●短期成果指標（短期アウトカム）

事業名	タスク	短期成果指標（アウトカム）	成果管理指標 担当者氏名	事業を実施した事による得られる変化や 事業と事業の関連
事業A	タスクA			
	タスクB			
	タスクC			
事業B	タスクA			
	タスクB			
	タスクC			
事業C	タスクA			
	タスクB			
	タスクC			
事業D	タスクA			
	タスクB			
	タスクC			

●中期成果指標（中期アウトカム）

事業名	タスク	中期成果指標（アウトカム）	成果管理指標 担当者氏名	事業を実施した事による得られる変化や 事業と事業の関連
事業A	タスクA			
	タスクB			
	タスクC			
事業B	タスクA			
	タスクB			
	タスクC			
事業C	タスクA			
	タスクB			
	タスクC			
事業D	タスクA			
	タスクB			
	タスクC			

アウトカムは、組織の外の情報。顧客やステークホルダーへのアンケート・面接・取材により得られる。責任者を決め中期・短期・長期の戦略的な成果指標としてアウトカムを計画する。

●長期成果指標（長期アウトカム）

事業名	タスク	長期成果指標（アウトカム）	成果管理指標 担当者氏名	事業を実施した事による得られる変化や 事業と事業の関連
事業A	タスクA			
	タスクB			
	タスクC			
事業B	タスクA			
	タスクB			
	タスクC			
事業C	タスクA			
	タスクB			
	タスクC			
事業D	タスクA			
	タスクB			
	タスクC			

●法人の目的（ビジョン）

法人活動で目的とする成果。法人内部成果ではなく、社会への影響力（インパクト）
事業を実施したことで、目的とした変化した社会。（価値感の変化・ライフスタイルの変化）

計画した目的（ビジョン）と影響力（インパクト）

この法人目的を一般に公開説明をすることで、目的達成への責任を明確にする。
この表を使用した説明は、目的達成への指標を示し、事業実施プロセスを含む内容となる。

支援者・受益者・ステークホルダーは、この説明（プレゼン）を聞き評価する。

●ソーシャルインパクト

計画された影響と想定外の影響を含む法人活動の評価
NPO法人の「環境への配慮・社会への影響力・自律した統治」が評価される。

この評価により、法人は、継続的に社会に存続することを支援される。
NPO法人は、支援者なしでは、存続が難しい組織である。